

令和4年度 第1回水産研究所研究評価委員会 (事後・事前評価結果)

日時 令和5年3月20日(月) 13時00分から16時30分まで  
 場所 WEB会議  
 委員 国立大学法人 三重大学大学院生物資源学研究所 教授 神原 淳 様  
 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 生理機能部長 奥村 卓二 様  
 三重県漁業協同組合連合会 指導部 部長 植地 基方 様  
 生活協同組合コープみえ 副理事長 安村 富子 様  
 北村物産株式会社 代表取締役社長 北村 裕司 様

事後評価 令和4年度終了課題

- 「英虞湾漁場環境調査」
- 「イセエビ栽培漁業実証化事業」
- 「三重県産養殖魚の産地間競争力強化技術開発」

目標の達成度、技術の発展性、技術移転・普及の具体性、今後の研究方向について評価を実施した。目標の達成度において一部不十分の事業もあったが、技術の発展性があり、技術移転・普及の具体性が認められ、今後の研究方向において新規課題として発展もしくは継続して完成を図るという評価であった。

事後評価結果 (数字は委員5名中の該当委員数。複数回答あり。)

課題名	目標の達成度				技術の発展性			技術移転・普及の具体性 (複数回答可)			今後の研究方向		
	目標以上達成	ほぼ目標どおり	一部不十分	不十分	課題全体として発展性あり	一部の中小課題について発展性あり	発展性は少ない	技術移転の可能性あり	製品化・普及の具体性あり	技術情報として有効	新規課題として未完成技術の発展を図る	未達成課題は継続して完成を図る	課題を終了する
英虞湾漁場環境調査	1	4	—	—	5	—	—	1	1	3	3	2	—
イセエビ栽培漁業実証化事業	1	2	2	—	2	2	—	1	—	3	—	4	—
三重県産養殖魚の産地間競争力強化技術開発	—	3	2	—	2	2	—	2	1	2	1	4	—

**事前評価** 令和5年度の新規予定課題

「志摩海域養殖漁場環境調査」

「イセエビ資源安定化技術開発事業」

「養殖魚の新しい疾病防除技術開発」

項目を研究の必要性、効率性、有効性とし、各項目について5段階（5点：かなり高い、4点：やや高い、3点：普通、2点：やや低い、1点：かなり低い）の評価を実施した。

結果は下表のとおりで、委員による各事業の総合評価は、4以上であった。

**事前評価結果（数字は委員5名の平均得点）**

課題名	必要性	効率性	有効性	総合評価 (平均)
志摩海域養殖漁場環境調査	5.0	4.2	4.4	4.5
イセエビ資源安定化技術開発事業	4.6	4.4	4.4	4.5
養殖魚の新しい疾病防除技術開発	4.8	4.2	4.2	4.4